

講義名	対1)生活構造論			授業形態	
担当教員	森脇 丈子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生
				ナンバリング	

主題と概要

私たちの生活は経済と深く結びついています。私たちの生活に影響を与える経済的要因にはどのようなものがあるか、生活に大きく影響する事象(出来事)はどのようにして引き起こされてくるか、企業や政府と個人はどのようなかわりを持っているのか、生活環境や雇用条件はどのようにつくりだされ、変化していきつつあるのかについて、学んでいきます。

新聞記事・動画などを適宜用いながら講義をおこないます。

対面授業では、受講生との議論をおこないます(レスポンス活用)。

到達目標

1. 私たちの生活と経済活動との結びつきについて理解できるようになる。
2. 家族構成や就業構造や生活時間の変化について、また、それらの変化が現代社会にどういった影響をもたらしているかについて理解できるようになる。
3. 働くこととのかかわり、経済の仕組みや法があり方を知って働くべき知識について学ぶことができる。
4. 働き方や雇用条件と生活との関係について学び、よりよい暮らしのために自分の考えを持つことができるようになる。

提出課題

受講登録者が多数(概ね80名超)の場合には、「小テスト」を実施します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業開始時に、前回授業に関する質問に対するコメントをします。

評価の基準

1. 「授業中の発言・態度」…点数=30点(2点×15回)
「課題」の欄に記入の通り、受講登録者が多数の場合には、小テストを実施する場合があります。この場合、点数配分が変わることがあります。授業中の説明をよく聞いて対応してください。
感染症予防に努めてください。マスクの未着用、マスクをきちんと着用していない人等には、退室してもらいます。
2. 定期試験…点数=70点
「授業中の発言・態度」の30点と定期試験の70点の合計点で、評価をします。
合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

対面授業では、学生に質問を出し、発言を求めます(レスポンス活用)。

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

教室での通常授業では、授業中の私語、教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは、教員の指示がある場合に使用してください。

授業科目として、「経済学入門」・消費文化論・消費者問題論・「NPO論」の受講を勧めます。

コロナ感染状況によっては、オンライン形式の授業形態に変更する(シラバスの変更を含む)場合があります。大学からの連絡を常にチェックしておいてください。

教科書

・「使用しない」。

参考図書

なぜ共働きも専業主婦もいいのか。	中野町佳	PHP新書	988	9784569843124
・フィンランドの教育はなぜ世界一なのか。	岩竹美加子	新潮社	902	9784106108174
・底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路。	山田昌弘	朝日新聞出版	792	9784022737359

その他

出席者に、プリント、新聞記事を適宜配布します。

参考文献
・松沢裕作(2018)『生きづらいつい明治社会 不安と競争の時代』。岩波ジュニア新書
・今野輝貴・板倉舞平(2014)『ブラック企業VSモンスター消費者』。ポプラ社
・小林美希(2018)『ルボ 中年フリーター「働けない働き盛り」の貧困』NHK出版新書

その他の参考文献やドキュメンタリーは、授業のなかで適宜紹介します。

授業計画

- 1 家計、家族、収入、資金
- 2 企業、政府、家計
- 3 世界構造、収支構造、世帯の収入・支出
- 4 戦後の日本経済(1) 高度経済成長期まで
- 5 戦後の日本経済(2) 低成長期以降
- 6 経済成長と公害
- 7 日本人の就業構造の変化(1) 戦後の経済と職種の変化
- 8 日本人の就業構造の変化(2) 「日本型雇用システム」の変容
- 9 日本人の就業構造の変化(3) 「新・日本の経営」
- 10 働き方(1) 労働時間、雇用形態
- 11 働き方(2) 働き方のルール、労働関連法
- 12 働き方(3) 最低賃金、ブラック企業、ブラックアルバイト
- 13 年金、社会保障、「大きな政府」「小さな政府」
- 14 教育・福祉国家との比較
- 15 まとめと定期試験について

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業終了時に、予習について説明します。次回の授業内容に関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時までに済ませておいてください(作業時間:2時間程度)。

その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基盤となります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。(作業時間:2時間程度)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の発展や人びとの考え方を捉えることができ、社会貢献・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面の授業中に多くの質問を出します。受講者は、自分の意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考

感染症予防に努めてください。マスクの着用のない人、きちんとマスクを着用していない人等には、退室してもらいます。

第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。

授業ではスマホをどうって、理解を深めてください(スマホによるPPT等の撮影は禁止します)。

授業中の私語や教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは教員の指示がある場合に使用してください。

授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。

新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。大学からの連絡をしっかりとチェックしてください。